



2017年3月期 決算説明会

2017年6月5日

リバーエレクトック株式会社

JASDAQ 証券コード6666

1. 2017年3月期 決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基

2. 2018年3月期 通期業績予想

および今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

1. 2017年3月期 決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基

2017年3月期 決算サマリー

- 減収：ハイエンド向けスマートフォンが大きく伸び悩む
- 減益：コスト削減に努めるも、水晶製品の大幅減収による影響を補えず

(単位：百万円)

	'16/3期	修正予想 ('17/2/10)	'17/3期		
				前期増減額	前期増減率
売上高	5,709	4,923	4,957	▲752	▲13.2%
営業利益	76	▲296	▲275	▲351	—
売上高営業利益率	1.3%	▲6.0%	▲5.6%	—	▲6.9pt
経常利益	62	▲280	▲263	▲325	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	35	▲292	▲278	▲313	—
EPS	4.81	▲39.61	▲37.77	▲42.58	—
ROE	1.4%	—	▲12.4%		▲13.8pt
期末為替レート (1 USドル)	120.61円	116.49円	116.49円	—	—

セグメント別売上高・経常利益

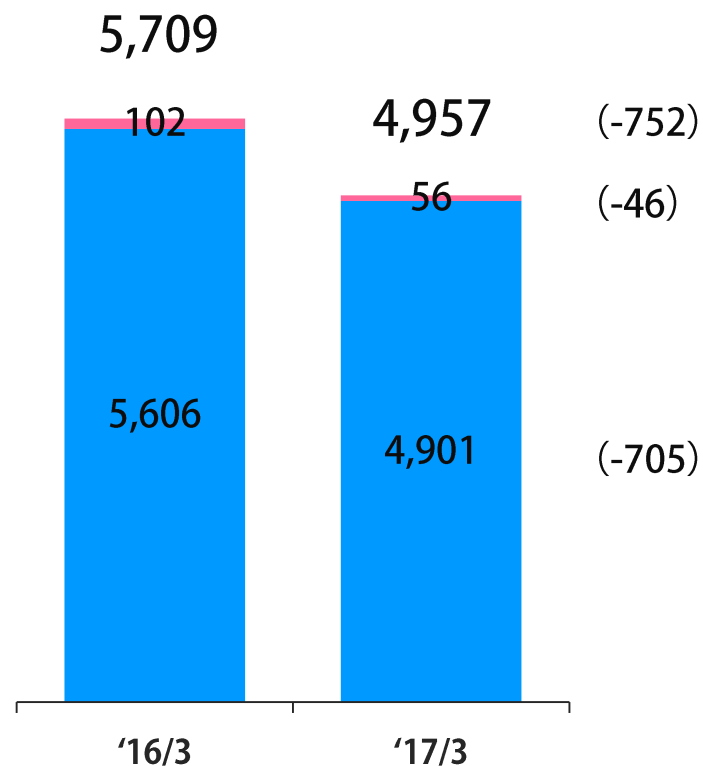
- 水晶製品事業 : ハイエンド向けスマートフォンの受注減少や販売価格下落のほか、円高による為替の影響もあり大幅減収
- その他の電子部品事業 : 無線通信向けの需要が後退

() は対前期増減額

売上高

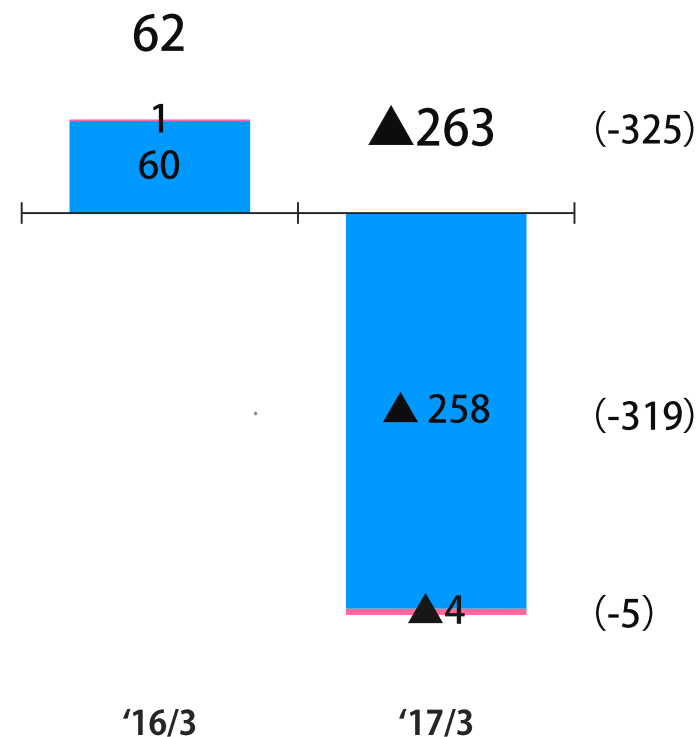
■ 水晶 ■ その他

(単位: 百万円)



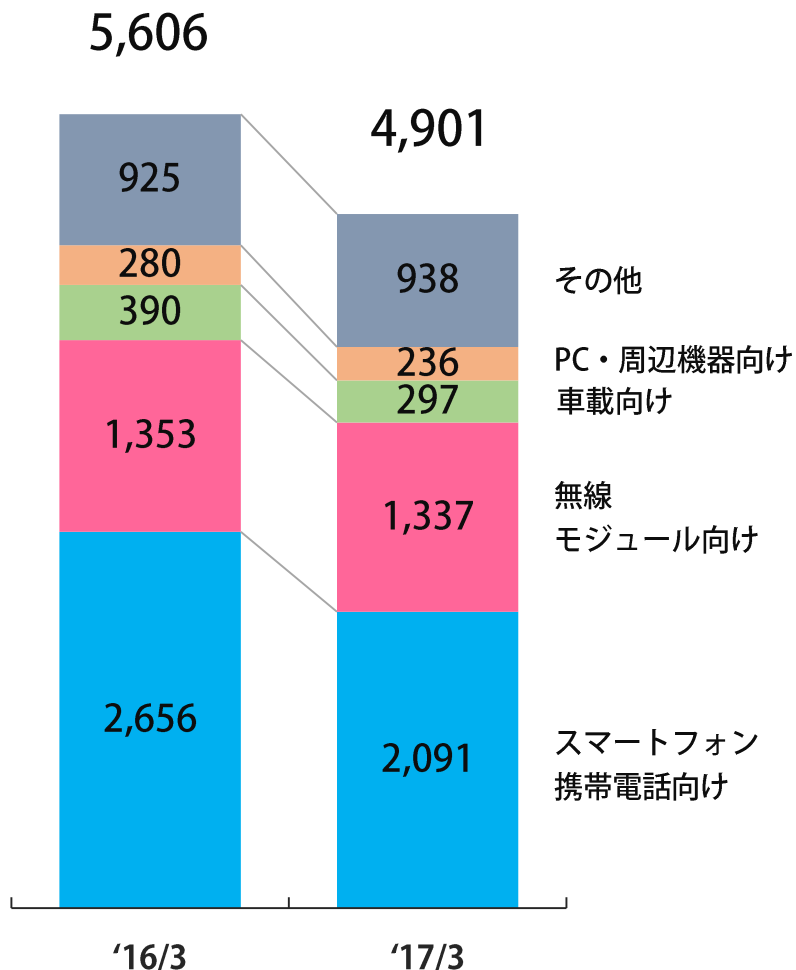
経常利益

(単位: 百万円)



アプリケーション別売上高〈水晶製品〉

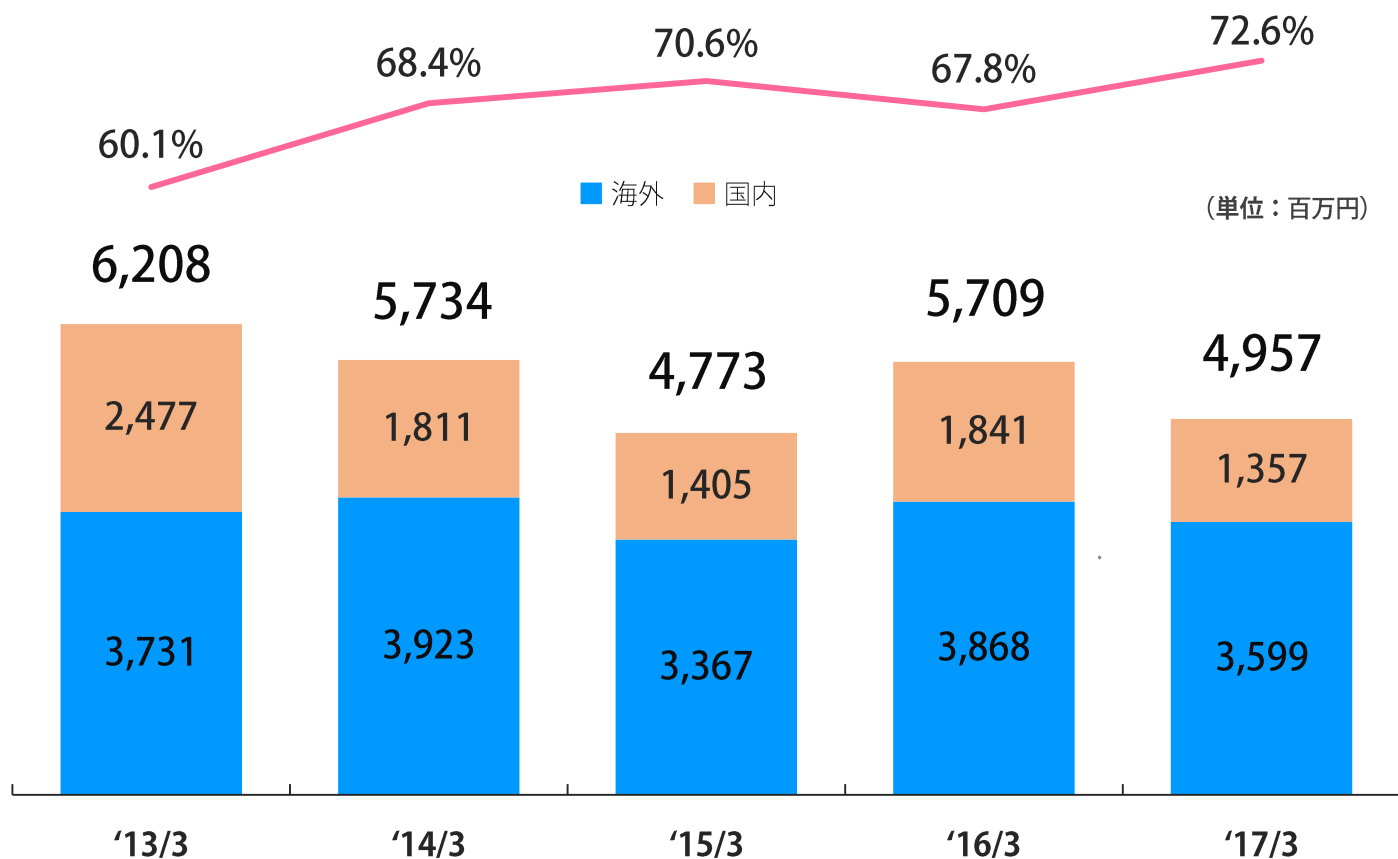
(単位：百万円)



- 中国メーカー向けスマートフォン需要は好調も、取引先品質問題もあり、ハイエンド向けの高付加価値製品の需要が大きく落ち込む
- 無線モジュール向けは受注好調も販売価格の下落及び円高による為替の影響が大きく、微減収

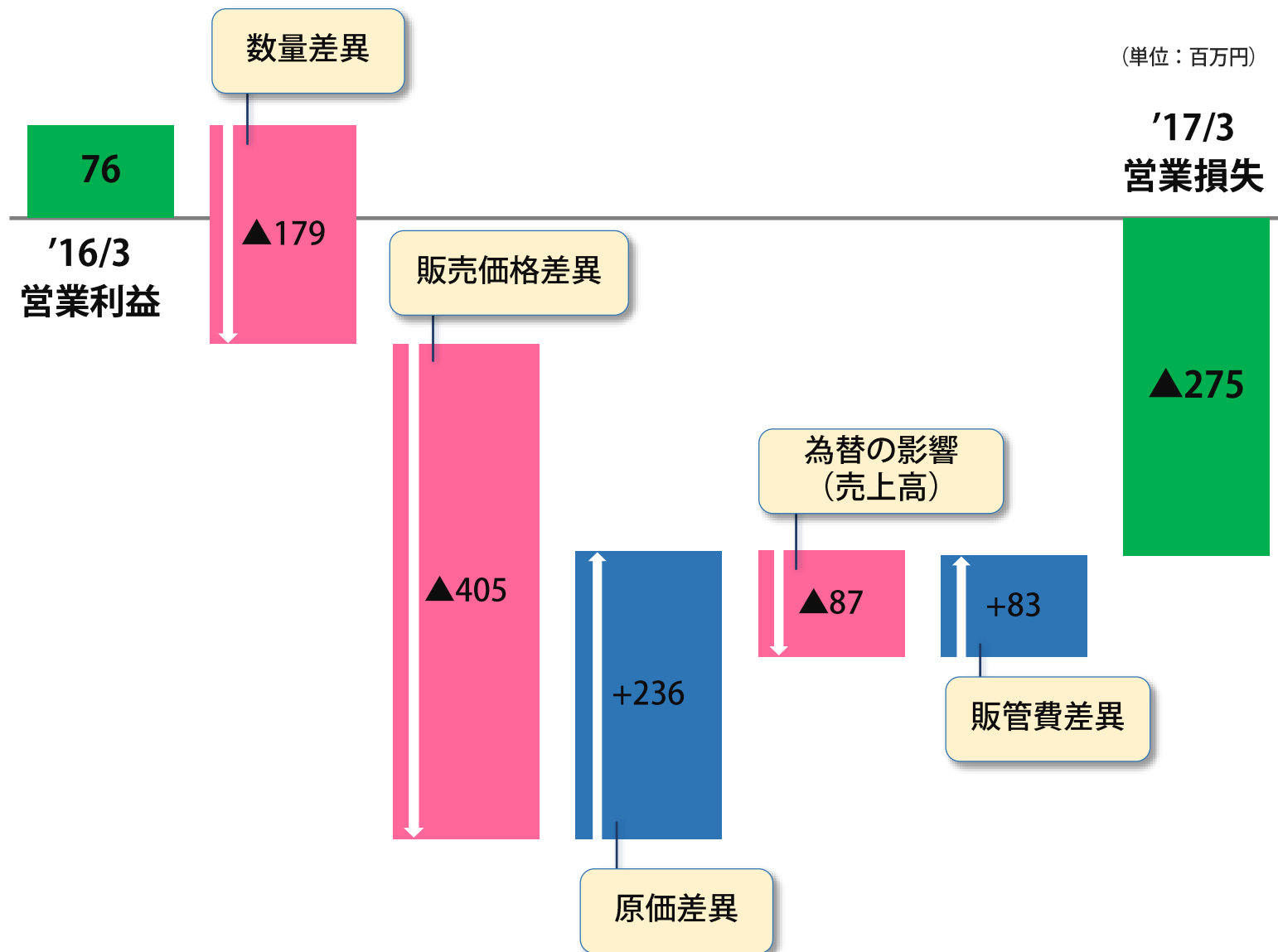
海外売上高

- 海外売上高 : 中国メーカー向けスマートフォンは伸びたものの、北米メーカー向けが振るわず前年同期比-13.4%
- 海外売上高比率: 国内売上高の大幅減収の影響もあり前年同期比+4.0pt



営業利益増減要因

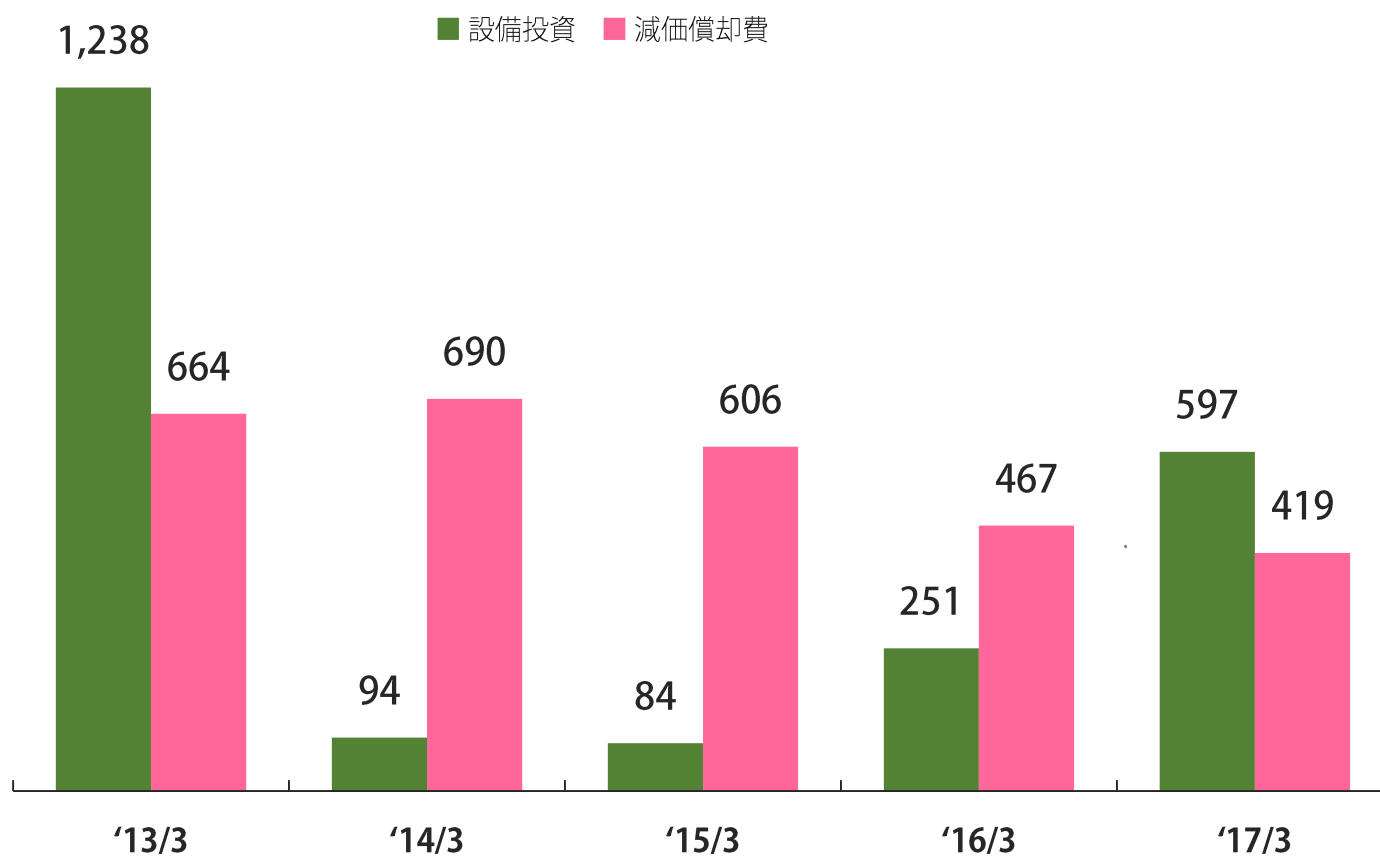
(単位：百万円)



設備投資・減価償却費

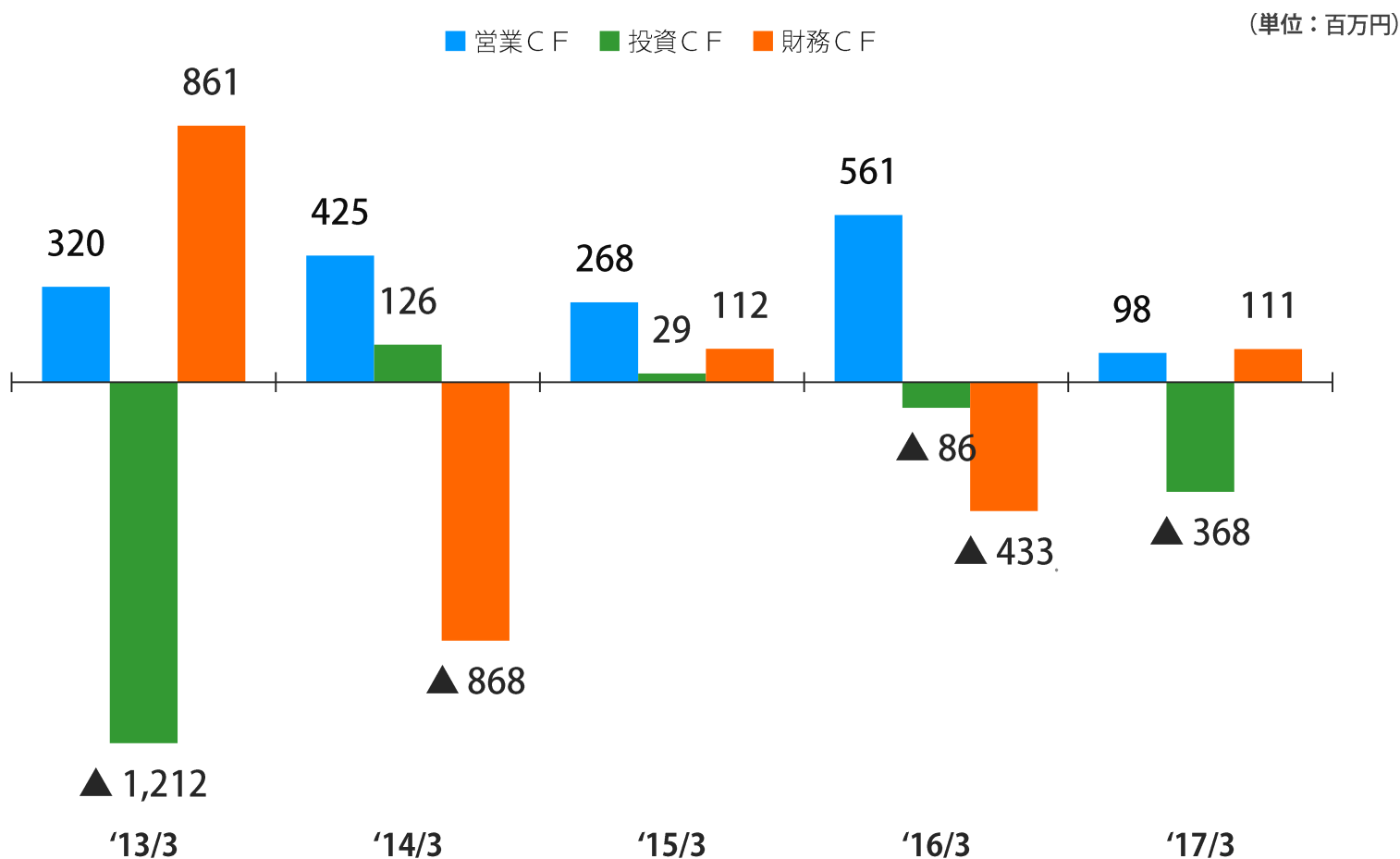
□ 新製品関連の投資が増加

(単位：百万円)



キャッシュ・フロー

- 営業ＣＦ：税金等調整前当期純損失▲264百万円、仕入債務の減少▲91百万円を計上したものの、減価償却費419百万円、たな卸資産の減少91百万円などにより98百万円
- 投資ＣＦ：有形固定資産の取得などにより▲368百万円



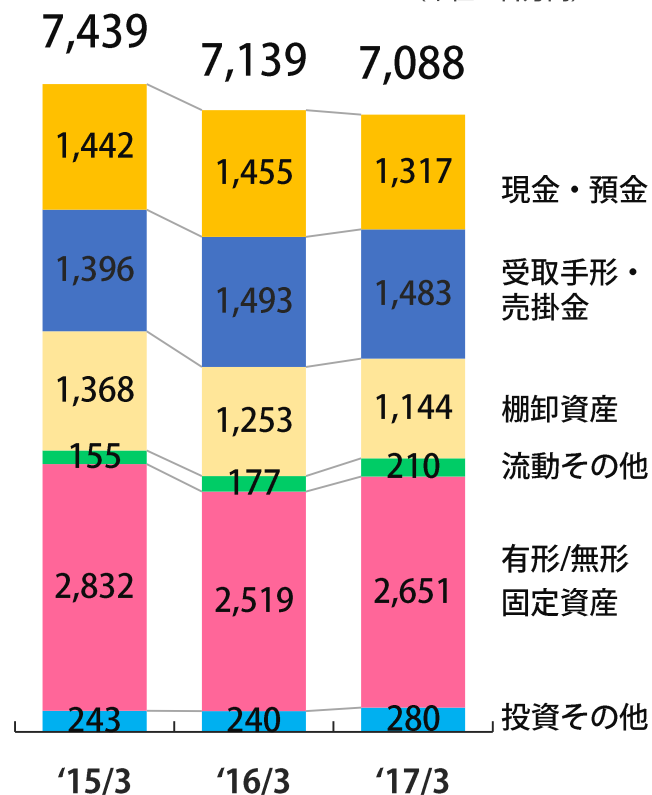
貸借対照表

□ 負債 ：有利子負債+201百万円、設備関係支払手形+23百万円

□ 純資産：利益剰余金▲289百万円、為替換算調整勘定▲72百万円

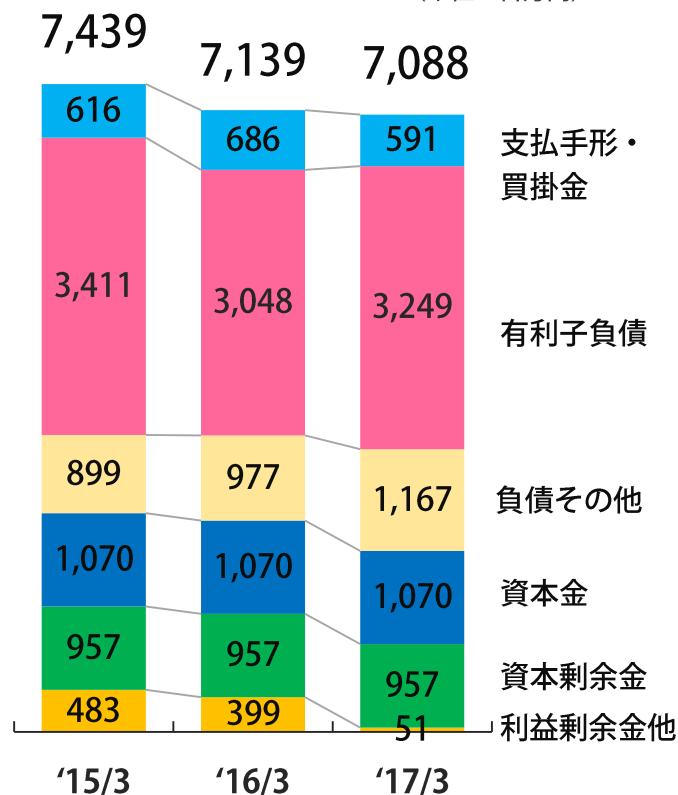
資産

(単位：百万円)



負債・資本

(単位：百万円)



2. 2018年3月期 通期業績予想

および今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

72期の振り返り

72期の振り返り

スマートフォンへの偏重リスクが顕在化

円高による為替リスク

内外で工程トラブル発生

市場競争激化による販売価格の低下

今後の取り組み

今後の成長に向けて、事業の選択と集中を明確にし、他社との差別化を図り、収益構造の改善を推進することが必要

・事業ポートフォリオの変革

成長市場へフォーカス
競争力のある新製品の
タイムリーな開発

・コア技術の深耕による原価低減

・生産体制の全体最適化による原価低減
欠陥コスト最小化、リードタイムの見直し、不動態在庫の撲滅

定量目標

2021年3月期の連結営業利益率3%以上を目指す

2018年3月期予想

- 増収：新製品の拡販強化に努め前期比7.0%の増収を見込む
- 増益：製造工程の見直しによる生産効率の向上や固定費削減を図る

(単位：百万円)

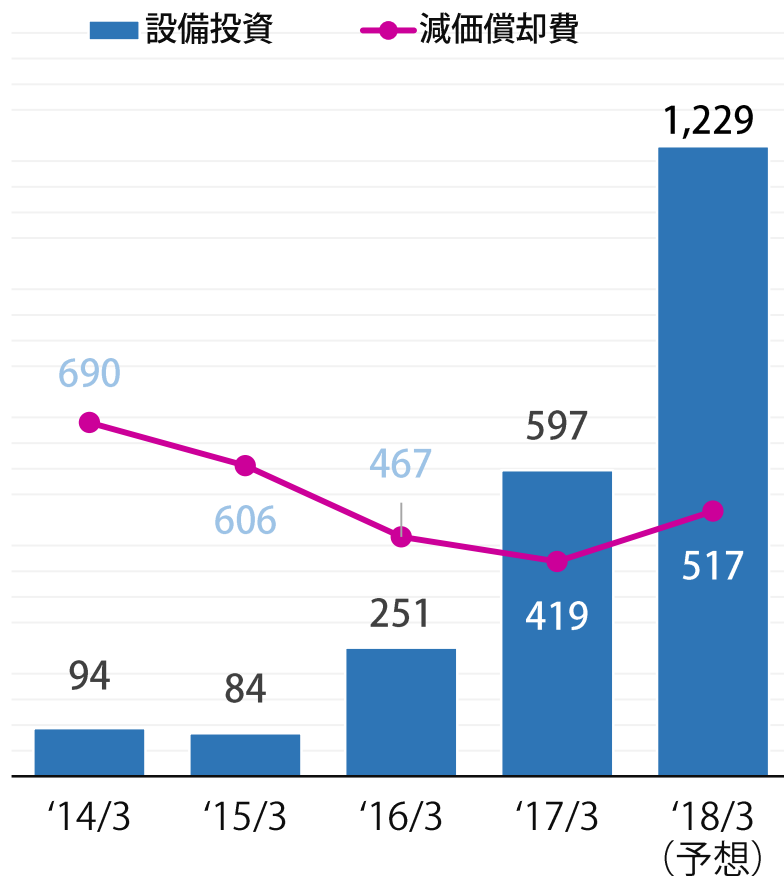
	'17/3期	'18/3期	前期増減額	前期増減率
売上高	4,957	5,305	347	7.0%
営業利益	▲275	171	446	—
売上高営業利益率	▲5.6%	3.2%	—	8.8pt
経常利益	▲263	146	410	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲278	118	396	—
EPS	▲37.77	16.08	53.85	—
期末為替レート (1USドル)	116.49円	115.00円	—	—

設備投資及び減価償却費、試験研究費

□ 市場動向を注視して新製品への投資は着実に実行する

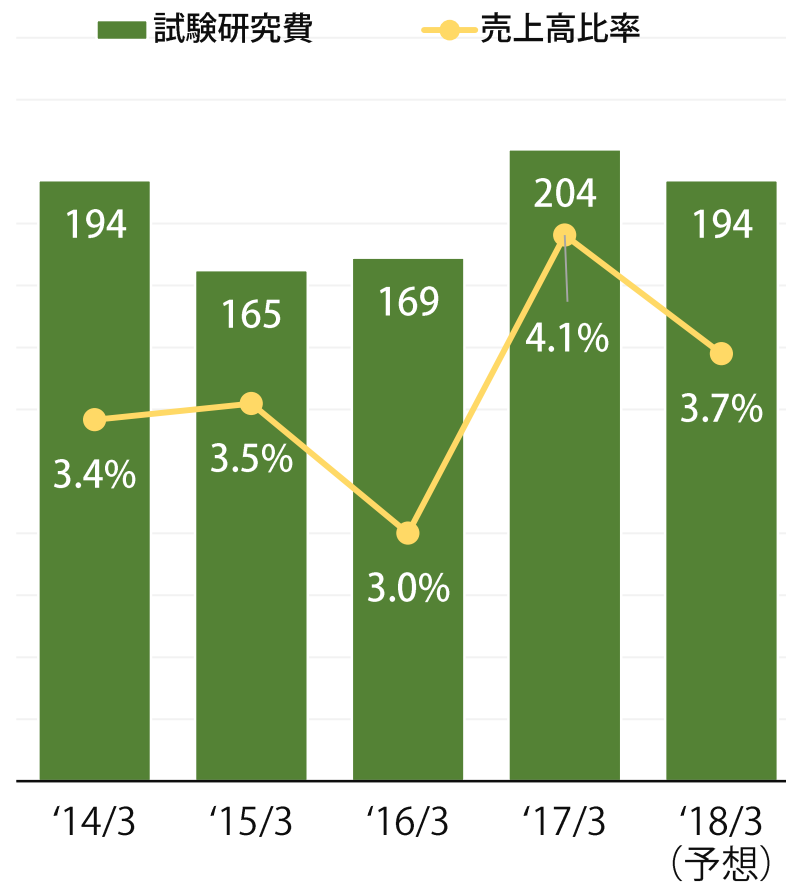
設備投資

(単位：百万円)



試験研究費

(単位：百万円)



スマートフォン市場のトレンド

- 世界出荷台数は1桁台の成長率となるも、2020年に20億台に達する見込み
- 通信技術の進展により、ミドル・ローモデルも高性能化する傾向
- 中国スマホメーカーのハイエンドモデル化と新興国ニーズが拡大している



背景

成長は鈍化するものの、新興国中心に小型かつ高性能な水晶製品の需要が高まる

方向性

時流にあった高付加価値品に加えコストと性能を両立した製品を投入していく

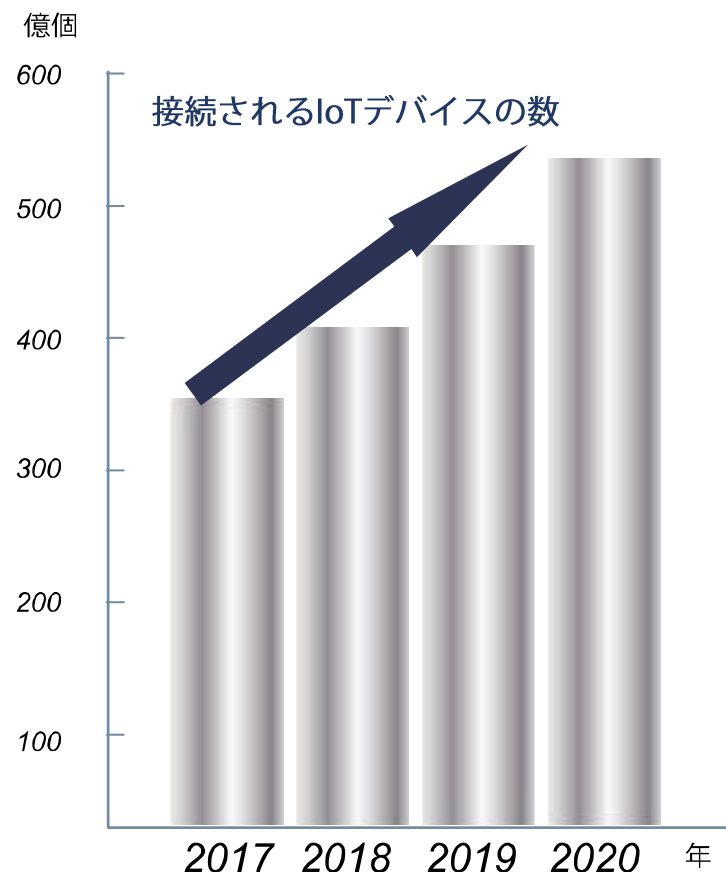


無線モジュール（IoT）市場のトレンド

□ あらゆるモノが無線技術で繋がる世界に高性能水晶デバイスが必須となる

市場規模：2023年には1950億ドル（22兆円）

2016年の160億ドルから、10倍以上の成長見込み



※HIS Technology調べ

インターネットに接続されるデバイスも増加

IoT市場における採用実例

□ ウェアラブル機器、医療ヘルスケアからセーフティーまで

①ウェアラブルカメラ

世界初、眼鏡に装着しウイंकに反応して撮影できるカメラ（ハンズフリー）



- ▶ 重さ25g 待機時間8時間
通信方式:Bluetooth 4.1
カメラ:HD CMOS(500万画素)
販売:株式会社Blincam

FCX-06

TFX-04

②ドローン

配送サービス、地形調査、在庫管理など、様々なビジネスに活用されるドローン。水晶はカメラモジュールやモーター制御のキーパーツとして使用される



- ▶ 1台につき6個使用（プロペラ部のモーター制御装置用）

FCX-04C

近距離通信技術・省電力・センサー技術の進歩により、用途が拡大



いずれも当社の音叉型水晶振動子・ATカット水晶振動子が採用

自動車市場への本格参入

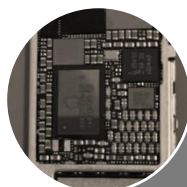
2020年に向けて本格化

通信用部品を車載向けに展開し、安全性と利便性を高める分野に製品を提供する

水晶製品に加え、車載用SAWフィルターを主力として、当社技術ノウハウを販売していく。



自動車・車載向け



無線モジュール
IoT市場



スマートフォン

背景

自動車の安全性や自動運転技術の向上から、電装化が進み、搭載部品が増加

方向性

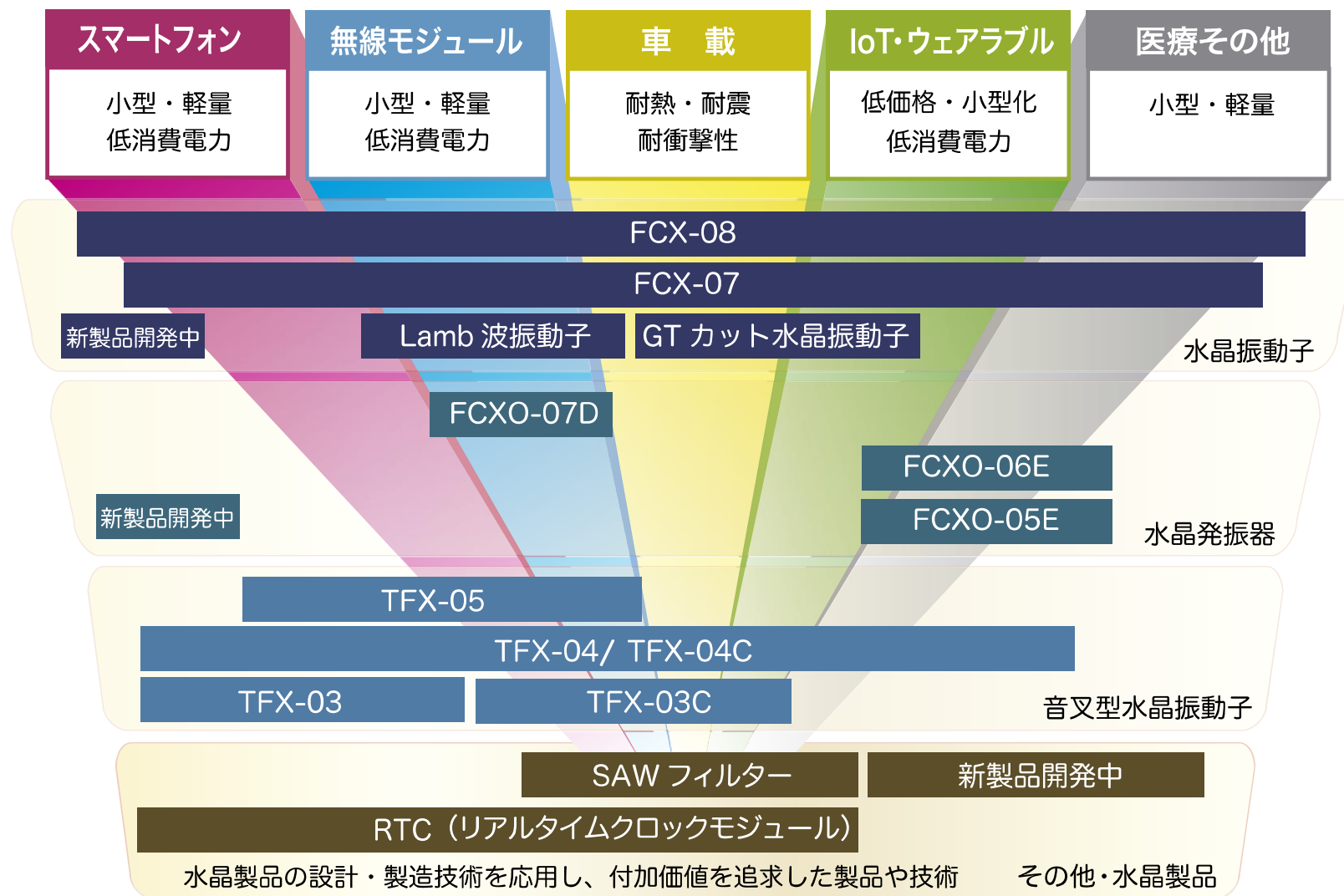
得意とする既存市場を盤石なものとし、自動車市場に資本を注力していく

今後の普及が進むと見込まれるサービス

- 自動緊急通報システム（Eコール）
- スマートキー使用時の車両盗難時の追跡
- 高度道路交通システム（ITS）

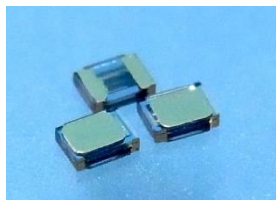
市場が求める製品群

□ 顧客ニーズや市場が求める需要に応え、ベストバリューを提供する



新製品発表

□ 世界最小クラスの1210超小型音叉型水晶振動子



New **TFX-05**

1.2mm×1.0mm×0.35mm max.

背景やニーズ

モバイル機器における32.768kHzクロック
の小型・低背ニーズは今後さらに高まる



独自技術

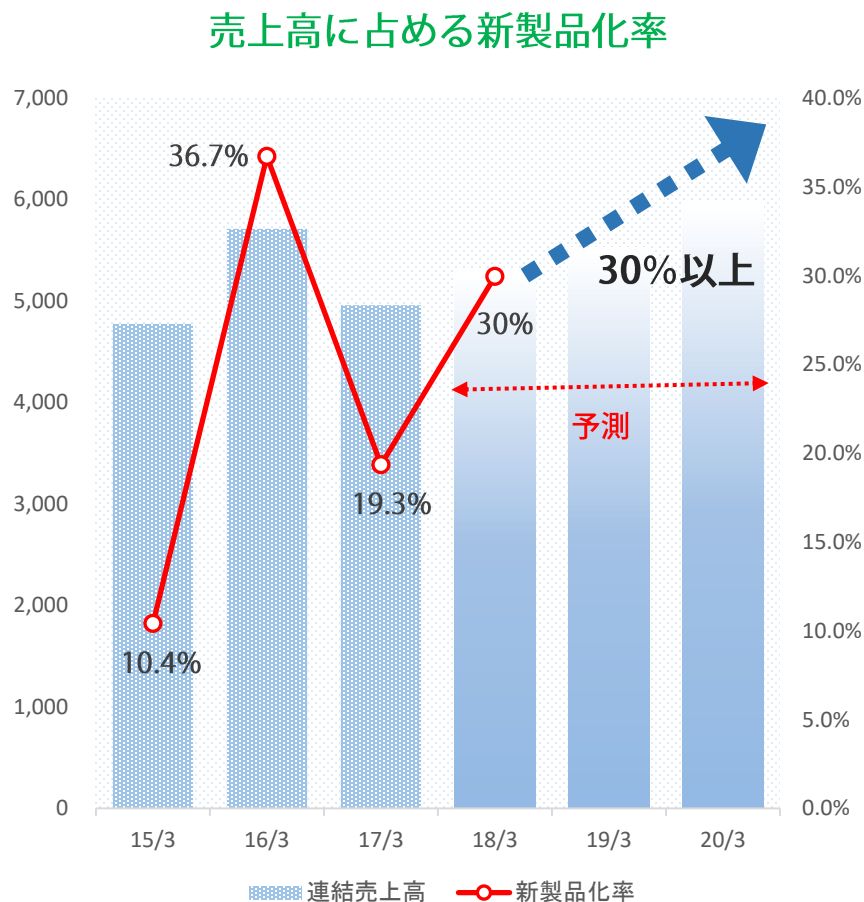
金属間直接接合を用いた新パッケージ封止技術を開発、
従来工法に比べ同等以上の高信頼性を確保し、さらなる
超小型製品に展開中

製品の特長

- ・スマートフォン、IoT市場などで要求される小型・高性能・高品質を実現
- ・従来のパッケージと比較して優れた経時変化や耐熱性を実現
- ・AEC-Q200（車載向け認証基準）に準拠
- ・体積47.5%の小型化、重量75%の軽量化（当社TFX-04比）

プロダクトミックスの改善

□ 新製品化率30%以上をキープし、プロダクトミックスの改善を図る



新製品

音叉型水晶振動子

TFX-05

1.2mm×1.0mm×0.35mm max.

ATカット水晶振動子

FCX-08

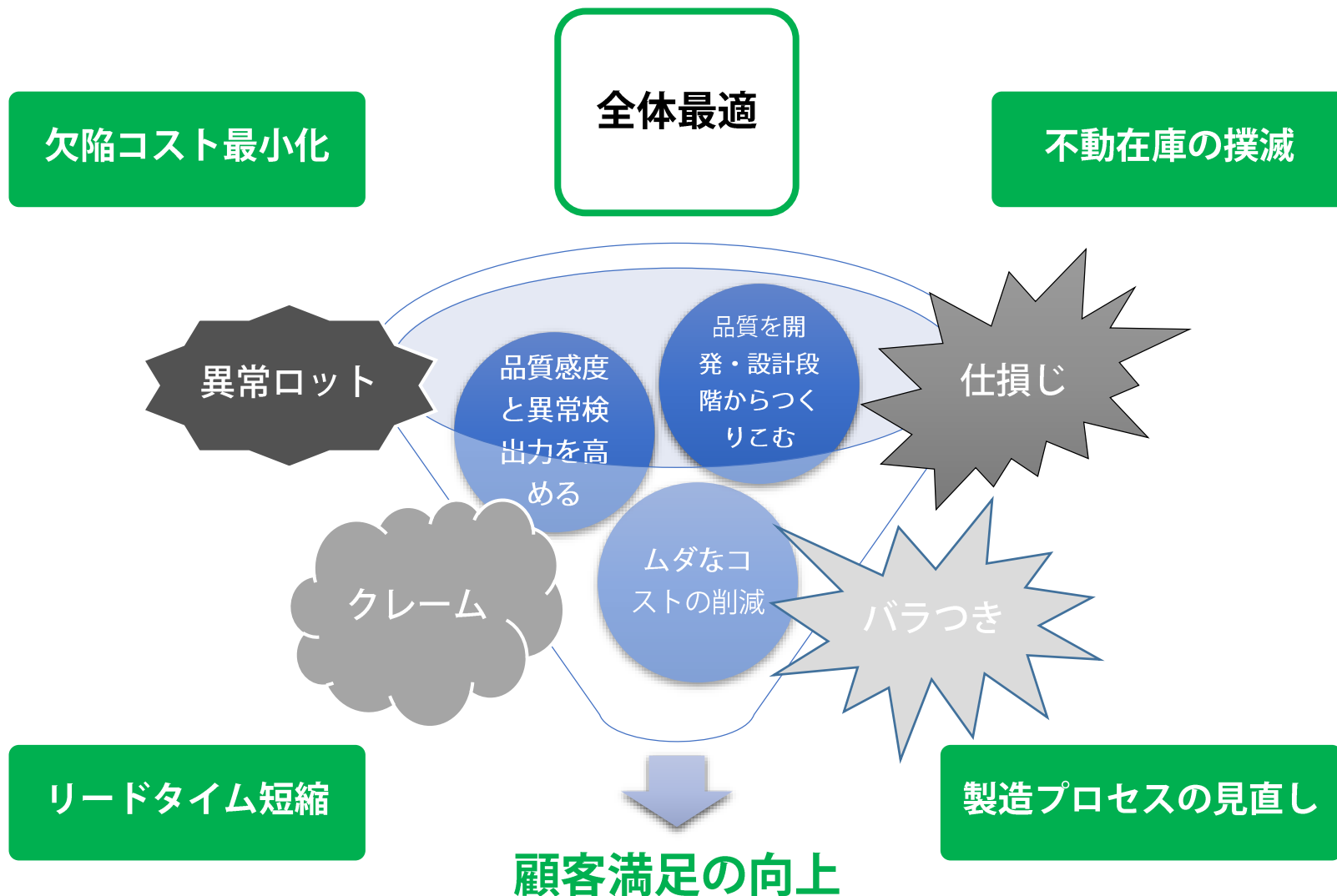
1.2mm×1.0mm×0.33mm max.

その他、水晶技術や製造技術
を応用した新しい製品

新製品や利益率の高い製品の売上構成比を高め、製品ごとの限界利益率を改善していく

原価低減と顧客満足品質の実現

□設計・材料・工程管理トータルで品質欠陥ゼロ化を目指したものづくりを推進



配当政策－2018年3月期 配当金見通し

配当による還元を第一とし、配当性向20%以上（対連結当期純利益）を最低の目安とした安定的な配当を継続的に行うことに努めます

□早期の復配に向けて資本準備金及び利益準備金を取崩し損失の補てんを行う予定です。
平成29年5月25日公表 「資本金及び利益剰余金の額の減少並びに剰余金の処分に関するお知らせ」

	2014/3期 実 績	2015/3期 実 績	2016/3期 実 績	2017/3期 実 績	2018/3期 予想
1株当たり配当金	3.00円	—	1.50円	—	未定
〔うち1株当たり 中間配当金〕	(1.00円)	—	(0.00円)	—	—
配 当 性 向 (対連結当期純利益)	19.6%	—	31.2%	—	—

本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

I Rに関するお問い合わせ先

総務部経営企画課

<http://www.river-ele.co.jp/faq/faq03.html>